東京外国語大学『語学研究所論集』第19号（2014.3）,265-275

ウルドゥー語における他動性

萬宮 健策

1. ウルドゥー語動詞の特徴

本稿でウルドゥー語の他動性について論じるにあたり，まずウルドゥー語動詞の特徴につきその概略に触れておきたい.

ウルドゥー語の動詞は，例外なくその不定詞語尾が nā で終わる．本稿では，この nā の部分を語尾と呼び，それより前の部分を語幹と呼ぶこととする．たとえば，likh-nā（書く）では likh が語幹であり，nā が語尾である．"-"は語幹と語尾の切れ目を示す．インド・ヨーロッパ語族のうち現代インド・アーリヤ諸語に属するウルドゥー語は屈折語であり，語尾の部分が変化することにより，さまざまな分詞等を形成する．また，主語の人称（１，２，３人称）・性（男性，女性）・数（単数，複数）に応じた語尾変化がある.

分詞には未完了分詞と完了分詞がある．未完了分詞は，語尾 nā を tā に変えることでつくられる．先の likh-nā を例にとると，未完了分詞は likh-tā である．また，完了分詞は nā の代わりに ā を付加してつくられる．具体的には，likh-ā となる．これら分詞でも，上記の語尾変化が適用される.

他動詞の完了分詞を用いる単純過去や完了の文は，意味上の主語が能格後置詞 ne を伴う能格構文となる．また，意味上の主語が与格後置詞 ko を伴う与格構文が，喜怒哀楽や義務を示す表現で多用される．これら後置詞を伴う名詞（句）については，主格から後置格へと格の交替が起きる．この点は，例文で具体例を示しつつ説明を行う.

不定詞はそのまま動名詞としての機能を有し，上記 likh-nā は，「書くこと」という意味も表す．ウルドゥー語には名詞に文法性があるが，動名詞については語尾が ā で終わる男性名詞と同じ変化をする.

上記以外の動詞の特徴としては，補助動詞の使用が挙げられよう．補助動詞とは，本来の意味を持つ動詞に続けて，たとえば動作の強調や話者の意志を示す動詞を指す．上記 likh-nā を例にとると，likh de-nā（人のために書いてあげる）や，likh le-nā（自分のために書く，書いてしまう（動作の完了））の de-nā や le-nā が補助動詞である．補助動詞として用いられる場合，その動詞本来の意味は失われる.

2. 具体例の分析

本節では，例文を参照しつつ，具体例を検討してゆく.

(1) a. 彼はそのハエを殺した.

b. 彼はその箱を壊した.

c. 彼はそのスープを温めた.

d. 彼はそのハエを殺したが，死ななかった．（発話可能かどうか？）

a. us	ne	us	makkhī	ko	mār ḍāl-ī.
彼 3.sg.OBL.	pp.ERG.	それ OBL.	ハエ f.sg.OBL	pp.DAT	殺す PERF.f.sg.
b. us	ne	vo	ḍibbā	toṛ-ā.	
彼 3.sg.OBL.	pp.ERG	それ ABS.	箱 m.sg.ABS	壊す PERF.m.sg.	
c. us	ne	vo	sūp	garam	
彼 3.sg.OBL.	pp.ERG	それ ABS.	スープ m.sg.ABS	あたたかい ADJ.	
kiy-ā.					
する PERF.m.sg.					
d. ??us	ne	vo	makkhī	ko	mār ḍāl-ī
彼 3.sg.OBL.	pp.ERG.	それ OBL.	ハエ f.sg.OBL	pp.DAT	殺す PERF.f.sg.
lekin nahīṇ	mar-ī.				
しかし 否定辞	死ぬ PERF.f.sg.				

上記の文 a，b，c はどれも他動詞を用いる文であり，ウルドゥー語では先述のとおり能格構文となる．

d 文については，複数の母語話者に確認したところ，文法的に誤った文ではないが，論理的に破綻している，という説明だった．すなわち，「殺した」時点でハエは死んでいるので，そのあとに「死ななかった」と続くことはあり得ない，ということである．したがって，文の前段が「殺そうとしたが」であれば，問題ないということである．参考までに，彼はそのハエを殺そうとしたが，死ななかったという文 d’は次のとおりである．

d’. us	ne	us	makkhī	ko	mār-ne
彼 3.sg.OBL.	pp.ERG.	それ OBL.	ハエ f.sg.OBL	pp.DAT.	殺す INF.OBL.
kī košiš		kī	lekin	vo	makkhī
pp.GEN.f努力 f.sg.ABS		する PERF.f.sg	しかし	それ ABS	ハエ f.sg.ABS.
nahīṇ mar-ī.					
否定辞 死ぬ PERF.f.sg.					

(2) a. 彼はそのボールを蹴った.
b. 彼女は彼の足を蹴った.
c. 彼はその人にぶつかった（故意に）
d. 彼はその人にぶつかった（うっかり）

a. us	ne	us	gend	ko
彼 sg.OBL.	pp.ERG.	それ sg.OBL.	ボール m.sg.OBL.	pp.DAT
ṭhokar	mār-ī.			
蹴り f.sg.ABS.	たたく PERF.f.sg.			

b. us	ne	us	ke	pāoṇ
彼女 sg.OBL.	pp.ERG.	彼 sg.OBL.	pp.GEN.m.OBL.	足 m.OBL.
ko ṭhokar		mār-ī.		
pp.DAT. 蹴り f.sg.ABS.		たたく PERF.f.sg.		
c. us	ne	us	ādmī	se
彼 sg.OBL.	pp.ERG.	それ sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	pp.ABL.
ṭakkar	mār-ī.			
衝突 f.sg.ABS.	たたく PERF.f.sg.			
d. us	ko	us	ādmī	se
彼 sg.OBL.	pp.DAT.	それ sg.OBL.	人 m.sg.OBL.	pp.ABL.
ṭakkar	hu-ī / lag-ī.			
衝突 f.sg.ABS.	なる／着く PERF.f.sg.			

(2)で特徴となるのは，c.と d.の文である．c.が能格構文であるのに対し，d.は与格構文となっている．どちらも「衝突」の部分が文法上の主語になっている点は共通であるが，c.については，ぶつかった側にぶつかろうとする意志があったために，他動詞完了分詞を用いる能格構文を用い，うっかりぶつかった d.については，その意志がなかったため，他動詞完了分詞を用いない文となっている．

(3) a. あそこに人が数人見える．／I see some people there.
b. 彼はその家を見た.
c. 誰かが叫んだのが聞こえた．／I heard somebody cry out.
d. 彼はその音を聞いた.

a. wahāṇ	kuch	log	dikhāī de-te haiṇ.	
あそこ ADV.	少し ADJ.	人びと m.pl.ABS.	見える PRES.m.pl.	
b. us	ne	vo	ghar	dekh-ā.
彼 3.sg.OBL.	pp.ERG.	それ ABS.	家 m.sg.ABS.	見る PERF.m.sg.
c. kisī	ko	cīx-te hu-e	sunāī diy-ā.	
誰か sg.OBL.	pp.DAT.	叫ぶ	聞こえる PERF.sg.	
d. us	ne	vo	āwāz	sun-ī.
彼 3.sg.OBL.	pp.ERG.	それ ABS.	音 f.sg.ABS.	聴く PERF.f.sg.

自動詞「見える」「聞こえる」と他動詞「見る」「聞く」は，ウルドゥー語ではどれも他動詞として扱われる．

(4) a. 彼は（なくした）鍵を見つけた.
b. 彼は椅子を作った.

a. us	ko	vo	cābī	mil-ī
彼 3.sg.OBL.	pp.DAT.	それ ABS.	鍵 f.sg.ABS.	入手する PERF.f.sg
(jo	kho gaī thī).			
（REL.PRON.	なくなる Past.PERF.f.sg）			
b. us	ne	kursī	banā-ī.	
彼 3.sg.OBL.	pp.ERG.	イス f.sg.ABS.	つくる PERF.f.sg.	

ウルドゥー語では，「（鍵を）見つける」という表現ではなく，「（鍵が）見つかる」という表現が用いられ，意味上の主語が与格後置詞を伴う与格構文となる．その際見つかった鍵が主格となり，動詞と一致する．

(5) a. 彼はバスを待っている．（習慣）（今このときに限定）
b. 私は彼が来るのを待っていた.
c. 彼は財布を探している.

a. 1) vo		bas	kā	intizār
彼 sg.ABS.		バス f.sg.OBL.	pp.GEN.m.sg.	待つこと m.sg.ABS.
kar-tā		hai.		
する PRES.m.sg.		コピュラ PRES.sg.		
2) vo		bas	kā	intizār
彼 sg.ABS.		バス fsg.OBL.	pp.GEN.m.sg.	待つこと m.sg.ABS.
kar		rah-ā hai.		
する STEM.		進行 PRES.m.sg.		
b. maiṇ	us	ke	ā-ne	kā
私 ABS.	彼 sg.OBL	pp.GEN.OBL.	来る INF.OBL.	pp.GEN.m.sg.
intizār		kar	rah-ā thā.	
待つこと m.sg.ABS.		する STEM.	進行 PAST.m.sg	
c. vo	baṭwe	kī	talāš	kar
彼 ABS.	財布 m.sg.OBL.	pp.GEN.f.	探索 f.sg.ABS.	する STEM
rah-ā hai.				
進行 PRES.m.sg.				

a.では，1)の文が「毎日同じ時間にバスを待つ」という習慣を表す一方，進行表現となる 2)は，今実際にバスを待っている状況を示している．

(6) a. 彼はいろいろなことをよく知っている.
b. 私はあの人を知っている.
c. 彼には××語（ドイツ語，中国語，・・・）がわかる.

a. vo	bahut	kuch	jān-tā	hai.
彼 ABS.	たくさん ADJ.	少し ADJ.	知る PRES.m.sg.	コピュラ PRES.sg.

b. 1) maiṇ	us	ādmī	ko	jān-tā	hūṇ.
私 ABS.	あれ sg.OBL	人 m.sg.OBL.	pp.DAT.	知る PRES.m.sg.	コピュラ PRES.1.sg.
2) maiṇ	us	ādmī	ko	pahcān-tā	hūṇ.
私 ABS.	あれ sg.OBL	人 m.sg.OBL.	pp.DAT.	識別する PRES.m.sg.	コピュラ PRES.1.sg.

c. 1) us	ko	XX zabān	ā-tī	hai.
彼 sg.OBL.	pp.DAT.	XX 語 f.sg.ABS.	来る PRES.f.sg.	コピュラ PRES.sg.
2) vo	XX zabān	jān-tā	hai.	
彼 sg.ABS.	XX 語 f.sg.ABS.	知る PRES.m.sg.	コピュラ PRES.sg.	

b.あの人を知っているという表現では，1)見知っている場合と，2)他の人と識別できる場合とでは動詞が異なる．ただし，人を知っている場合と，物事を知っている場合とでは動詞が異なることはない.

c.については，与格構文 1)，能動文 2)ともに表現できるが，ネイティブ・スピーカーによればその意味に差はないという．しかし筆者の観察では，ネイティブ・スピーカーは 1)を多用する．与格構文は，「彼は XX 語ができる」，絶対格構文は「彼は XX 語を知っている」という意味である.

(7) a. あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか?
b. 私は彼の電話番号を忘れてしまった.

a. kyā	āp	ko	vo	yād	hai
虚辞	あなた OBL.	pp.DAT.	それ ABS.	記憶 f.sg.ABS.	ある
jo	maiṇ	ne	kal	batā-ī thī?	
REL. PRON.	私 OBL.	pp.ERG.	昨日	伝える PERF. PAST.f.sg.	

b. maiṇ　us　kā　nambar　bhūl
　私 OBL.　彼 OBL.sg.　pp.GEN.　番号 m.sg.ABS.　忘れる STEM.PERF.m.sg.
　gay-ā.
　補助動詞 PAST.m.sg.

b.は，「忘れる」という他動詞を用いているが，ウルドゥー語では例外的に能格構文とならない．こうした例外には，理解する(samajh-nā)，持って来る(lā-nā)，話す(bol-nā)がある[1].

(8) a. 母は子供たちを深く愛していた.
　b. 私はバナナが好きだ.
　c. 私はあの人が嫌いだ.

a. mān　apne　bacce　ko　bahut
　母 ABS.　自分の m.OBL.　こども OBL.m.sg.　pp.DAT.　とても ADV.
　pyār kar-tī thī.
　愛する PAST. HABIT.f.sg.
b. mujhe　kelā　pasand　hai.
　私 DAT.　バナナ m.sg.ABS.　好きな ADJ.　コピュラ PRES.sg.
c. mujhe　vo　ādmī　nāpasand
　私 DAT.　それ sg.ABS.　人 m.sg.ABS.　嫌いな ADJ.
　hai.
　コピュラ PRES.sg.

b，c における好き嫌いを表現する場合，「好きな」「嫌いな」という形容詞を用いたウルドゥー語では与格構文となる．なお，b.では以下のとおり「好む」という動詞を用いる文も用いられる．

b’ maiṇ　kelā　pasand kar-tā　hūṇ.
　私 ABS.　バナナ m.sg.ABS　好む PRES.m.sg　コピュラ 1.sg.

(9) a. 私は靴が欲しい.
　b. 今，彼にはお金が要る.

a. maiṇ　jute　cāh-tā　hūṇ.
　私 ABS.　靴 m.pl.ABS.　欲する PRES.m.sg.　コピュラ PRES.1.sg.

---

[1] 一方，歩く(cal-nā)という自動詞は，--kii cāl cal-nā（～の策を弄する）と直接目的語を伴う場合，他動詞としての意味も有する.

b. ab　use　paise　cāhiy-eṇ.
今 ADV. 彼 sg.DAT.　お金 m.pl.ABS.　必要だ pl.

欲しがっている場合は絶対格構文が用いられ，必要としているという表現では与格構文となる．

(10) a. （私の）母は（私の）弟がうそをついたのに怒っている．
b. 彼は犬が恐い．

a. (merī)　mān　apne　bacce
（私 f.GEN.）　母 f.sg.ABS.　自分 m.sg.GEN.OBL.　こども m.sg.OBL.
ke　jhūṭ　par　nārāz
pp.GEN.m.sg.OBL.　嘘 m.sg.OBL.　pp.LOC.　怒った ADJ.
haiṇ.
コピュラ PRES.pl.

b. use　kuttoṇ　se　ḍar　lag-tā
彼 sg.DAT.　犬 m.pl.OBL.　pp.ABL.　恐怖 m.sg.ABS.　付く PRES.m.sg.
hai.
コピュラ PRES.sg.

ウルドゥー語では，喜怒哀楽の表現に与格構文が多用されるが，a.は「怒った」という形容詞を用いた文であり，絶対格構文で表現されている．

(11) a. 彼は父親に似ている．
b. 海水は塩分を含んでいる．

a. vo　wālid　se　miltā jultā
彼 sg.ABS.　父 m.sg.OBL.　pp.ABL.　似ている ADJ.m.sg.
hai.
コピュラ PRES.sg.

b. samandarī　pānī　meṇ　namak　ke
海の ADJ.　水 m.OBL.pp.LOC.　塩 m.sg.OBL.　pp.GEN.OBL.
mawād　šāmil　haiṇ.
成分 m.pl.ABS.　含んだ ADJ.　コピュラ PRES.pl.

(12) a. 私の弟は医者だ．
b. 私の弟は医者になった．

a. merā	choṭā	bhāī	ḍākṭar
私 m.sg.GEN.	小さい ADJ.m.sg.	兄弟 m.sg.ABS.	医者 m.sg.ABS.
hai.			
コピュラ PRES.sg.			
b. merā	choṭā	bhāī	ḍākṭar
私 m.sg.GEN.	小さい ADJ.m.sg.	兄弟 m.sg.ABS.	医者 m.sg.ABS.
ho gay-ā / ban gay-ā.			
なる PERF.m.sg.／なる PERF.m.sg.			

「なった」という表現は上記のとおり２種類がある．ho gay-ā は ho-nā を一般動詞として用いる表現であり，ban gay-ā は「なる」という動詞を用いた表現である．意味に差異はない．

(13) a. 彼は車の運転ができる．
b. 彼は泳げる．

a. 1) use	gāṛī	calā-nā	ā-tā
彼 sg.DAT.	車 f.sg.ABS.	動かす INF.	来る PRES.m.sg.
hai.			
コピュラ PRES.sg.			
2) vo	gāṛī	calā	sak-tā
彼 sg.ABS.	車 f.sg.ABS.	動かす STEM.	可能 PRES.m.sg.
hai.			
コピュラ PRES.sg.			
b. 1) use	tair-nā	ā-tā	hai.
彼 sg.DAT.	泳ぐ INF.	来る PRES.m.sg.	コピュラ PRES.sg.
2) vo	tair	sak-tā	hai.
彼 sg.ABS.	泳ぐ STEM.	可能 PRES.m.sg	コピュラ PRES.sg.

ウルドゥー語では，可能を表す補助動詞を使う表現と，「～ができる」という表現が併用される．なお，能力的な不可能を表現する場合は，受動態が用いられる．

(14) a. 彼は話をするのが上手だ．
b. 彼は走るのが苦手だ．

a. vo	acchā	bol-tā	hai
彼 sg.ABS.	よく ADV.	話す PRES.m.sg.	コピュラ PRES.sg.
b. vo	daur-ne	meṇ	anārī
彼 sg.ABS.	走る INF.OBL.	pp.LOC.	下手な ADJ.

hai.
コピュラ PRES.sg.

(15) a. 彼は学校に着いた.
b. 彼は道を渡った／横切った.
c. 彼はあの道を通った.

a. vo	iskūl	pahunc-ā.		
彼 sg.ABS.	学校 m.sg.OBL.	着く PERF.m.sg.		
b. us	ne	saṛak	pār kī.	
彼 sg.OBL.	pp.ERG.	道 f.sg.ABS.	渡る PERF.f.sg.	
c. vo	us	saṛak	se	guzr-ā.
彼 sg.ABS.	あれ OBL.sg.	道 f.sg.OBL.	pp.ABL.	通る PERF.m.sg.

(16) a. 彼はお腹を空かしている.
b. 彼は喉が渇いている.

a. use	bhūk	lag-ī	hai.
彼 sg.DAT.	空腹 f.ABS.	付く PERF.f.sg.	コピュラ PRES.sg.
b. use	pyās	lag-ī	hai.
彼 sg.DAT.	渇き f.ABS.	付く PERF.f.sg.	コピュラ PRES.sg.

(17) a. 私は寒い.

a. mujhe	sardī	lag	rah-ī hai.
私 DAT.	寒さ f. ABS.	付く STEM.	進行形 PRES.f.sg.

b. 今日は寒い.

b. āj	sardī	hai.
今日 ADV.	寒さ f. ABS.	ある sg.PRES.

(18) a. 私は彼を 手伝った／助けた.
b. 私は彼がそれを運ぶのを手伝った.

a. maiṇ	ne	us	kī	madad	kī.	
私 OBL.	pp.ERG.	彼 sg.OBL.	pp.GEN.f.	助け f.sg.ABS.	する PERF.f.sg.	
b. maiṇ	ne	use		le jā-ne	meṇ	madad
私 OBL.	pp.ERG.	それ sg.DAT.		運ぶ INF.OBL.	pp.LOC.	助け f.sg.ABS.

kī
する PERF.f.sg.

(19) a. 私はその理由を彼に訊いた.

b. 私はそのことを彼に話した.

a. maiṇ	ne	us	kī	wajah	us
私 OBL.	pp.ERG.	それ sg.OBL.	pp.GEN.f.	理由 f.sg.ABS.	彼 sg.OBL.
se	pūch-ī.				
pp.ABL.	尋ねる PERF.f.sg.				
b. maiṇ	ne	vo	bāt	use	batā-ī.
私 OBL.	pp.ERG.	それ sg.ABS.	事柄 f.sg.ABS.	彼 sg.OBL.	話す PREF.f.sg.

(20) 私は彼に会った.

maiṇ	us	se	mil-ā / mil-ī.
私 ABS.	彼 sg.OBL.	pp.ABL.	会う PERF.m.sg./f.sg.

動詞「会う」に２例あるのは，「私」が男性か女性かで語尾が変化するからである.

3. 結びに代えて

ウルドゥー語では，上記のとおり，与格構文がさまざまな表現に用いられていることがわかる．能格構文は，他動詞完了分詞を用いる文でしか現れないが，与格構文は時制を問わず用いられるのが特徴であろう．角田(1991)による二項述語階層の直接影響(1A)，知覚(2A，2B)，追求(3)を除くどの類においても与格構文による表現が可能である.

本稿で用いた略号は以下のとおり.

ABL	奪格	OBL	後置格
ABS	絶対格	HABIT	習慣
ADJ	形容詞	PAST	過去
ADV	副詞	PERF	完了
DAT	与格	pl	複数
ERG	能格	pp	後置詞
f	女性名詞	PRES	未完了
GEN	属格	PRON	代名詞
INF	不定詞	REL	関係詞
LOC	位置格	sg	単数
m	男性名詞	STEM	語幹

謝辞

本稿執筆に当たり，例文チェックおよび貴重なコメントをいただいた，モイーヌッディーン・アキール先生（本学元客員教授，1947 年インドのハイダラーバード生まれ），アーミル・アリー・ハーン先生（本学元外国人教員，1973 年パキスタンのカラチ生まれ）に心から御礼申し上げます．本稿で事実誤認等があるとすれば，すべて本稿執筆者に責任があります．

また，本稿は，科学研究費補助金（平成 24 年度基盤研究Ｂ（一般）研究代表者：町田和彦）の成果の一部です．

参考文献

欧文

Masica, Colin P. 1991. *The Indo-Aryan Languages*, New York: Cambridge University Press.

Schmidt, Ruth Laila. 2003. “Urdu” *The Indo-Aryan Languages*, Ed. by Cardona, George and Dhanesh Jain. pp.250-285. New York: Routledge.

和文

鈴木斌. 1981. 『基礎ウルドゥー語』東京：大学書林

_____ 1996. 『ウルドゥー語文法の要点』東京：大学書林

田中敏雄, 町田和彦. 1986. 『エクスプレス　ヒンディー語』東京：白水社